

施策番号	2004		
施策名	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用		
概要	地下鉄を市民生活やまちづくりに積極的に活用するため、市バスをはじめとした他の公共交通機関とのネットワークの強化、駅ナカビジネスの充実など、その魅力を高め、公共交通優先の社会への転換と沿線地域の活性化を推進する。		
担当局・部室	交通局・企画総務部	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関する主な分野別計画等	京都市高速鉄道事業経営健全化計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	27年度	28年度	29年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト
1 地下鉄の旅客数(千人)	a	a	372	379	356	106.5%	a	1.00
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
	a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	27年度	28年度	29年度回答						
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1 地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	a	a	226	209	61	22	20	538	a
			42.0%	38.8%	11.3%	4.1%	3.7%		
2 -	-	-							-
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
	a	a	市民生活実感調査総合評価				a		

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					28年度	A
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	a		
<p>(重み付けの理由)</p> <p>本市のまちづくりをはじめ、あらゆる政策を総動員して実現を目指す1日5万人の増客は、将来にわたる地下鉄事業の安定的運営に向けた健全化策の最大の柱であり、客観指標による評価を重視する。</p>						27年度	A
<p>(原因分析)客観指標総合評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。</p>							
<p>(原因分析)市民生活実感調査総合評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。</p>							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		29年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		28年度 決算額	29年度 予算額		
1	京都市高速鉄道事業	68,542,900	79,876,000	-	交通局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・公共交通優先の「歩くまち・京都」の理念の浸透や、駅及び周辺での観光・集客イベントの開催、大学や商業施設の開業をはじめとする地下鉄を核としたまちづくりを進めるなど、全庁を挙げて増客の取組を進めてきた結果、平成28年度において1日あたりのお客様数が平成21年度に比べて5万2千人の増加となる37万9千人となり、経営健全化計画で掲げた「1日5万人増客」の目標を2年前倒しで達成することができた。

・今後は、お客様サービス・利便性の向上や安全対策の強化はもちろんのこと、新たな目標として「地下鉄・市バスお客様1日80万人」を掲げ、民間団体にも参画いただく新組織「チーム『電車・バスに乗るっ』」により、地下鉄・市バスに加え、民間の鉄道やバスも含めた公共交通を活用した取組を実践することで、引き続き、市民の貴重な財産である地下鉄・市バスのネットワークを活用し、市民の皆様とともに「歩くまち・京都」や「健康長寿のまち・京都」の更なる推進に寄与していく。

・また、副市長をトップとする全庁組織「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」を設置し、各局・各区役所が連携していくほか、「若手職員増客チーム」についても、民間団体が参画する新組織と連携することで、取組の充実を図っていく。

施策名	2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用
-----	------	------------------------

指標名	地下鉄の旅客数（千人）
-----	-------------

担当課	営業推進室	連絡先	863-5094
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

地下鉄の1日当たりの旅客数

2 指標の意味

ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の発展に資する地下鉄1日5万人増客に向けた取組状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：旅客収入から算出した1日平均旅客数
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	372	379	7千人増	356	京都市高速鉄道事業経営健全化計画における旅客数見込み	106.5%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		375千人	30年	101.1%	京都市高速鉄道事業経営健全化計画における旅客数増加見込み

備考	
----	--

5 評価基準

1日当たりの旅客数が
a：359千人以上
b：357千人以上358千人以下
c：356千人
d：354千人以上355千人以下
e：353千人以下

6 基準説明

京都市高速鉄道事業経営健全化計画（下表）における各年度の旅客数の見込みについて、達成をcとし、2千人の増減の範囲をbまたはd、それらを上回る（下回る）増減をa（e）とした。

24	25	26	27	28	29	30
329千人	330千人	338千人	347千人	356千人	365千人	375千人

7 評価結果

27	28	29
a	a	a